

## C-2 住居内におけるこどもの場について 生活時間と生活行為と場との関係

奈良女子大 ○杉山美智子  
北村 君

1. 住居には子女の養育の場としての機能があり、子どもたちはここでのびやかに自己の生活を展開することがたいせつである。そのためにはどのような環境が、のぞましいであろうかという点につき、今回は中学高学年の生徒を対象に、時間的・空間的環境に焦点をあわせ現状を調査してみた。

2. 奈良女子大学付属中学校3年女子75名を対象とし、「住居内においてどのような場を自分の場としているか」について、(1)住宅の間取図、(2)生活時間調査とにより「本人の生活時間と生活行為およびその場との関係を平日と休日の2日間について調べた。

3. 平日は学校ですごす時間が大きな割合をしめ、帰宅後から就寝までの4～7時間のうちでは、勉強につきやす時間が一番多くなっている。

休日は勉強以外の目的で外出するものは少なく、自宅で勉強と休養とのくりかえしをしているものがほとんどである。

中学3年生にとっては生理的・必要時間以外は勉強およびそれに類した行為につきやされる時間がもっとも多くなっている。現状の中学生の生活時間よりみると、快適なる勉強部屋の必要性の大なることがうかがえる。